

# 第10号

2017年5月20日

発行者

がん哲学外来市民学会  
〒385-0046 長野県佐久市前山321-3  
がん哲学外来研修センター  
電話0267-63-5369 FAX0267-63-5389  
E-mail:shimin@gantetsugaku.org  
http://www.shimingakkai.org/

# がん哲学外来市民学会 ニュースレター

Cancer Philosophy Clinic Association for the People



## がん哲学外来市民学会第6回大会 「人生に答える」学習と実践の場



がん哲学外来市民学会 代表  
順天堂大学医学部病理腫瘍学 教授  
樋野 興夫

春分の日、『信州大学がん哲学外来 in 軽井沢』（軽井沢病院に於いて）に赴いた。信州大学の学長と軽井沢病院長の挨拶で始まり、その後、筆者は、講話の機会が与えられた。それから、『がん哲学外来・カフェ』の時間が持たれ、最後に、信州大学病院長の挨拶で終えた。極めて有意義な一時であった。今後も継続されることであろう。全国から多数の訪問客のある軽井沢には、独特の雰囲気がある。軽井沢は、悩める人々へ、夢を与える「場所」でもあろう。

春分の日、『信州大学がん哲学外来 in 軽井沢』（軽井沢病院に於いて）に赴いた。信州大学の学長と軽井沢病院長の挨拶で始まり、その後、筆者は、講話の機会が与えられた。それから、『がん哲学外来・カフェ』の時間が持たれ、最後に、信州大学病院長の挨拶で終えた。極めて有意義な一時であった。今後も継続されることであろう。全国から多数の訪問客のある軽井沢には、独特の雰囲気がある。軽井沢は、悩める人々へ、夢を与える「場所」でもあろう。

癒す為には一つの村」の実現である。Medical Villageで、「がん哲学外来・カフェ」開設は時代的要請となろう。

「がん哲学外来市民学会」は、『病気は人生の夏休み』（幻冬舎）『あなたはそこにいるだけで価値ある存在』（KADOKAWA）の学習の場である。まさに、『人生から期待される生き方』（主婦の友社）を通して「人生に答える」実践の場でもある。

## ようこそ神戸へ！

神戸薬科大学  
薬学臨床教育センター 教授  
市民学会第6回大会長  
沼田 千賀子

阪神淡路大震災から20年が経過し、震災に対する思いも風化しつつある中、昨年石巻の被災地を訪問しました。その際、復興が進んでいない現状に愕然とするとともに、その中で逞しく立ち向かっている方々の姿も目にしました。病気や震災という形は違っても、人はその試練に立ち向かい乗り越える強さを持つていて、それも仲間や繋がりの中で引き出されることを感じました。

今年度の神戸大会のテーマは「役割を果たす」です。これは、自身が12年前に乳がんに罹患し、自分の人生と向き合ったときに発した「自分の役割とは何か」の問いが根底にあります。その後、この問いかけと共に歩んできた道すがら多くの仲間との出会いがあり、それが乗り越える力となりました。

第6回大会は、学会代表、順天堂大学教授の樋野興夫先生の基調講演「見据える勇気」凛として生きる為に」で開演します。がん哲学外来をたった一人で始めた、その原点の心に触れ

大きな志を持った若者が育ち、社会で活躍してくれることは、学会にとっても大きな希望であり、そのような教育性の向上も重要な課題だと感じています。では、皆さまの神戸へのお越しを心よりお待ちしております。



最新刊「人の心に贈り物を残していく」  
樋野 興夫 著  
柳田 邦男 著  
柳田 邦男 著  
樋野 興夫 著  
柳田 邦男 著  
樋野 興夫 著

## 新渡戸稲造記念 さっぽろがん哲学外来

- ◆2013年8月
- ◆jnakaz@agate.plala.or.jp

さっぽろがん哲学外来は樋野先生から強い示唆を受け、3名の同志で開設した。当初は隔月で例会を開いてきたが、昨年末に抜本的な見直しを行い今年から毎月開催の茶話会方式にした。また、「スヴェンソン札幌サロン」との連携を強め、サロンを会場に充てるなど、合同開催のメディカルカフェとして活動を活発化している。(中里 準治)

## がん哲学外来 メディカル・カフェ ～その1～

- ◇ 開設年月
  - ◇ 主な連絡先
  - ◇ カフェ紹介 (文責)
- ※ 次号に続く

## まちなかメディカルカフェ in 宇都宮

- ◆2013年4月
- ◆khirabay@tochigi-cc.jp

サバイバー医師の呼びかけで2013年4月から毎月開催。事前の希望により、会場「下野新聞NEWS CAFE」の本格コーヒーに材料厳選の手作りスイーツを提供。1階では医療者など専門家対応の個別相談を、2階ではグループトーク中心に展開。県内に同様の場ができたり相談者からスタッフとして活躍する方もいたり活動は進化中。(大竹 伸子)

## 新渡戸稲造記念がん哲学外来 メディカル・カフェ

- ◆2011年10月
- ◆TEL 019-653-1151(代)

樋野先生が北東北のがん関連の会合にいらした際に「盛岡なら新渡戸稲造記念」ということで開設。岩手県立中央病院内で毎月第3金曜日に開催している。会の締めくくりに、がん哲学的講話を実施。東北・北海道圏内の「がん哲学外来メディカル・カフェ」では、吉田富三記念に次いで古株である。(加藤 誠之)

## 新座志木がん哲学 外来カフェ

- ◆2014年4月
- ◆nsbc@church.ne.jp

がんで母を亡くした妻が樋野先生との面談で「あなたも開催したらいいじゃない」と言われたこと、お茶の水カフェのスタッフ棚瀬さんに後押ししてもらったこと。この二つが開催の大きな要因。キリスト教の教会で少人数の参加にも拘わらず、ここを気に入って参加して下さる方がいる。お菓子のセレクトに拘り有り。(岸尾 光)

## がん哲学外来カフェ in 万座

- ◆2012年9月
- ◆ichimura@manza.co.jp

群馬県万座温泉「日進館」に所在する。館内に談話の場として「湯治サロン」があり、それが「がん哲学外来カフェ」である。訪問型ではなく宿泊滞在型であることが特徴。行政とも構想中の「メディカル・ビレッジin嬬恋村万座」を「軽井沢～万座メディカル・ビレッジ街道」として9月10日にシンポジウム開催予定である。(市村 雅昭)

## がん哲学外来 @川越のぞみカフェ

- ◆2015年6月
- ◆nmariko7@hotmail.com (西岡まり子)

5年前、胃がんの治療中にカフェと出会う。がん患者には時間がないと思いカフェスタッフを募る。2年前、「川越のぞみ教会」で毎月第4木曜2時～5時に患者会の帰りに寄れる「のぞみカフェ」を始める。歌から始まり、「ことばの処方箋」の朗読、対話カフェ、一言感想後はテーマソングを大合唱する。(高橋 直美)

## 川口がん哲学カフェ 「いずみ」

- ◆2017年1月
- ◆TEL 090-8494-6316 (金田佐久子)

がんと闘った多くの友があり今も闘病中の仲間がいる。筆者は牧師としてその苦悩に寄り添ってきた。約3年前「がん哲学外来」を知る。いくつかのがん哲学メディカルカフェに参加し運営方法を検討し、ようやくカフェ開始にこぎつけた。開催場所は「日本基督教団西川口教会」である。(金田 佐久子)

## 春日部がん哲学外来 & メディカルカフェ

- ◆2013年4月
- ◆tmm\_takano@yahoo.co.jp

春日部メディカルカフェは、日本バプテスト教会連合南桜井キリスト教会を拠点に活動。教会の中にあっても対象は一般市民と考え、年1回の樋野先生をお迎えしてのイベントは公民館を会場にして教会という敷居を取り除いている。しかし、がん哲学と共にキリストの癒しを求めよう方が起こされているのも事実である。(高野 みどり)

## がん哲学外来メディカル・カフェ in SPU(埼玉県立大学)

- ◆2016年12月
- ◆tsukuda-shizuko@spu.ac.jp

昨年12月に開設準備講演会を開催。樋野先生との出会いから5年…心に描いたとおりの環境でのカフェ開設である。保健医療福祉学部をもつ大学の特徴を活かし、医療や福祉、心理等に関する講座+カフェの形式で、地域の方、学生、医療関係者等と一緒に学び、感じたことを対話で響かせ合えるような場を築いていきたい。(佃 志津子)

## 野田がん哲学外来 & メディカルカフェ

- ◆2016年5月
- ◆TEL 070-2179-0457

埼玉(現在10か所)と同じく千葉の地にもがん哲学外来との願いで開所。それも早現実のものとなり、柏の樋野先生の外来を始め4か所になった。地元の方の「近くにがん哲学の場所を」の声に励まされ、開所してよかったと感謝している。スタッフの願いである「笑顔で帰れるカフェ作り」を目指している。(高野 みどり)

## ながれやま・がん哲学外来カフェ

- ◆2017年1月
- ◆TEL 090-2657-8948

昨年6月樋野先生との面談に恵まれた。既に心身乗り越えていた為、面談内容は養成講座旨を尋ねるも元気な私は苦笑され、流山の教会でカフェを勧められた。大変驚いたが大病経験が役立つならと即効性と英断で半年後に講演会、翌月からカフェオープン。教会の協力を得て現在に至る。毎回カフェは笑いの渦！(春日井いつ子)

## がん哲学外来メディカルカフェ @葛西

- ◆2016年12月
- ◆mcafe.kasai@gmail.com

主宰者である私が34歳の時に初発。その後出産をし、現在までに3回の発症と7回の手術をした。10年後の生存率が5%と宣告され、「がん哲学外来」を知り、お茶の水カフェに参加し始める。樋野先生のお話に感銘を受け、自分の使命・役割は何かと考えた時に、自分の体験が少しでも他の方たちの役に立てればと始めた。(井黒 かおり)

## 花一輪カフェ

- ◆2017年1月
- ◆hanaichikafe@yahoo.co.jp

週に1回、八千代市民会館で開催。まだまだ少ない人数だが会の始めには必ず復興ソング「花は咲く」を皆で口ずさむ。がんになっても自分だけではなく周りを思うそんな気持ちを忘れないように。花一輪にも命がある。がん患者になってもがん患者を忘れて休もう。そんな時間を分かち合い、気づけるようなカフェでありたい。(上田 由起子)

## 渋沢栄一記念王子がん哲学外来 メディカルカフェ

- ◆2014年9月
- ◆egawa.moritoshi@topaz.plala.or.jp

桜の名所として知られる飛鳥山は東京都北区の王子にあり、かつて渋沢栄一の私邸があった縁の地として有名。毎月1回開催しているカフェには10名ほどが集まる。北区在住・通勤の人を中心に、患者さんや医療関係者など、地域の方が安心して集まれる居場所となるカフェづくりをめざしている。(根木 真代)

## 恵泉多摩 がん哲学外来カフェ

- ◆2012年8月
- ◆FAX 042-375-0087

「恵泉多摩カフェ」は多摩市立グリーンライブセンター(植物園)の談話室で、植物に囲まれ5年前より、毎月第2土曜日の1時から2時間欠かさず開催している。来られる方は5人~10人くらい、4名~5名のスタッフで温かくお迎えしている。美しい緑の植物園の中で、涙あり、笑いあり…、粛々と時が流れていく。(大木 貞嗣)





## 目白がん哲学外来カフェ

- ◆2016年8月
- ◆mejirogtcafe@yahoo.co.jp

地域猫活動の知人に猫に優しい教会として案内された時、掲示板で樋野先生講演会予告を見た。講演会の後、私の心の尊厳に触れた「言葉の処方箋」の体験を皆様に伝えた。その日の内に有志が話し合い、即効性と英断でカフェ開設に至る。医療の隙間を埋める癒しと寄り添いの場となる「底が頑丈な空っぽの器」がモットー。(森 尚子)



## がん哲学外来 メディカルカフェ新小岩

- ◆2015年5月
- ◆gantetugaku@gmail.com

2013年がんに罹患し、がんを経験した先輩方に助けて頂いたことからピアサポートの場を作ろうと2015年新小岩の『暮らしの保健室かなで』にて「がんカフェ」を始めた。その頃、樋野先生にお会いして同場所で「がん哲学外来メディカルカフェ新小岩」を開始。カフェを月1回、がん哲学外来を3ヶ月に1回開催している。(田中 愛子)



## がん哲学外来お茶の水 メディカル・カフェin OCC

- ◆2012年5月
- ◆bara@ochanomizu.cc

毎月1回開催のお茶の水メディカルカフェは、JR御茶ノ水から2分、丸の内線、千代田線から5分の「お茶の水クリスチャンセンター」で開かれている。御茶ノ水はメディカルタウンでもあり毎回60~70名の方がおいでになり、笑いあり涙あり生きる気力が起きて文字通り「病気であっても病人ではない」者たちの集まりである。(榎原 寛)

## 東中野メディカルカフェ



- ◆2015年4月
- ◆nakano.cafe@kg-tokyo.or.jp

高齢者福祉事業所の1階にある地域交流スペースで毎月1回、地域にお住いの様々な困難を抱える方々の対話の場所として開催。内装も木をふんだんに使い、居心地の良いスペースとし、家にいる感覚を大切にしている。他のがんカフェでスタッフをされている方々の参加も多く、和やかでアットホームなカフェである。(奥山 寧)

## メディカル・カフェ @よどばし



- ◆2014年7月
- ◆yodobashi@church.email.ne.jp

東京・新宿にあるキリスト教会。何か社会のお役に立ちたいという願いのもと月1回の開催を続けている。毎回、会の始めと終わりに樋野先生が言葉の処方箋を語って下さり、癒しと気付を頂く。参加人数は遠近より30~50名程。がん患者さんやそのご家族、医療関係の方々他、教会という性質上様々な悩みを持つ方も参加される。(市川 牧子)

## 東村山がん哲学外来 メディカル・カフェ



- ◆2014年8月
- ◆kzoya@aa.bb-east.ne.jp

病気の治療を続ける中、「がん哲学外来カフェ」との出会いが生きる力を与えてくれた。地元にもカフェがあればと3年前に東村山駅から直結の公共施設「サンパルネ」で始めた。毎月開催し、奇数月にはカフェの前に読書会(『いい覚悟で生きる』樋野先生著)も愉しんでいる。来られた方が想いを注いで下さるカフェである。(大弥 佳寿子)



## がん哲学外来 「鎌倉かふえ」

- ◆2016年11月
- ◆dr.teri@live.jp

曾祖母の代から乳がん4代目の私が企画した初回「鎌倉かふえ」は畳の間に座布団を敷きつめて、ひしめき合いながら樋野先生のお話を聴き、皆で熱いディスカッション。6月18日に鎌倉能舞台でシンポジウムを開く運びとなった。目線が低いところで繋がり合う、優しいちょっと和を意識した雰囲気を大切にしている。(中本 テリー)

## がん哲学外来メディカルカフェ ひばりが丘



- ◆2016年5月
- ◆yuipeace@tebz.t-com.ne.jp

会場・主催は西東京市にある「ひばりが丘教会」である。奇数月に1回、土曜日の13時半~15時半に開催している。冒頭で『がん哲学外来で処方箋を』を少しずつ読み、パイオリン演奏に合わせて参加者全員が歌っている。20名前後が集うアットホームなカフェである。毎回「ひばりが丘Mカフェだより」を発行している。(田鎖 夕衣子)



## がん哲学外来in Yokohama Spes Nova

- ◆ 2016年7月
- ◆ TEL 080-6250-7512

「メディカルカフェ・アイリス」はがん患者支援コミュニティNPO法人の活動の一部門として開設。患者会でもがんサロンでもない楽しい「しゃべり場」サロン。ファシリテーターとしてサバイバーの臨床心理士がサポート。スタッフも参加者も同じ目線で話題に参加し、助け合って仲間意識が芽生える。終了後は参加者が二次会をするほど。(塩尻 瑠美)

## たまプラーザ がん哲学外来カフェ

- ◆ 2016年6月
- ◆ bigmacw@m08.itscom.net

「横浜市たまプラーザ地域ケアプラザ」で毎月第1土曜日の14時から開催。がん患者、家族、遺族の方々が参加。苦しみを分かち合い、「生と死の学び舎」をつなぎ、「命を見つめる心」を育てている。立ち上げのきっかけは8年前に定命で死出の旅路に就いた長男からの目に見えない遺産「生き直す力」と樋野哲学との出会いである。(和田 眞)

## がん哲学外来メディカルカフェ in 菊名

- ◆ 2015年5月
- ◆ kwc@nifty.com

私たちのメディカルカフェは、5月と10月の年2回、菊名西教会にて行っている。「病を持ちながらどう豊かに生きるか」というがん哲学の考えに共鳴し、教会で始めることになった。樋野興夫先生のお力を借りつつ、毎回多くのがんの経験者や家族の方が集い、和やかにお話をしながらお互いを支え合う場となっている。(丸山 茂人)

## 東林がん哲学外来カフェ

- ◆ 2015年9月
- ◆ torin-tbc@tbr.t-com.ne.jp

がん患者と医療の間に隙間があること、がん患者の悩みはがんの治療のみではないことを樋野興夫先生の講演で知った。その隙間を埋める働き、がん患者の悩みを共有する場を全国に広めたいという樋野先生のビジョンに感銘を受け、教会でがん哲学外来カフェを開くことにした。現在患者とスタッフを合わせ10人程が集まっている。(山口 繁)

## 金沢がん哲学外来

- ◆ 2012年2月
- ◆ k.gantetsu@gmail.com

様々な立場のスタッフで年4~5回の開催、現在までに24回実施。また、月1回の定例会では相互理解を深めている。がん哲学外来は3本立てで、講演会を開いた後に医師によるがん哲学外来とメディカルカフェ「い〜じい」を並行して開いている。16回目からはミニコンサートを盛り込むなど気軽に参加しやすい会を目指している。(小石川 均)

## がん哲学外来 さがみはら・F

- ◆ 2016年1月
- ◆ mamanokisya@yahoo.co.jp

「がん哲学外来さがみはら・F」は相模原市の「さがみはら国際交流ラウンジ」の登録団体として活動。当ラウンジ「相談グループ」の団体としてがん相談・がん啓発活動を実施。昨年度は6月に講演会、10月には「外国人何でも相談会」に参加。さがみはら国際交流ラウンジにて毎週火曜10時から15時まで相談を受け付けている。(村上 利枝)

## がん哲学外来 「佐久ひとときカフェ」

- ◆ 2011年1月
- ◆ kenkokobo@hb.tpl.jp

2009年5月、東久留米市役所で開催された「NPOがん哲学外来・シンポジウム」に参加。地元市民を対象に「がん哲学外来交流会&研修会」を3回実施したのち、2011年1月に「若月俊一記念がん哲学外来佐久カフェ」をスタートさせる。その後、「がん哲学外来佐久ひとときカフェ」として毎回、ミニテーマ(話題提供)を掲げて現在に至る。参加者は20名前後だが、時に40名を超えることもある。地域のミニコミ紙で広報している。(星野 昭江)

## 浅井三姉妹記念がん哲学外来 ・メディカルカフェ

- ◆ 2011年8月
- ◆ TEL 0776-28-1212

福井県済生会病院では「他のがん患者さんや家族と話したい」「いろいろな情報が欲しい」というがん患者さんやご家族の思いを受け、「1人で悩まずに仲間や医療スタッフと話してみませんか?きっと心が軽くなります」をメッセージとして、日の光が明るく暖かい空間で毎月第1金曜日に病院内でメディカルカフェを開催している。(車屋 知美)

## がん哲学外来 「浅間対話カフェ」

- ◆2012年11月
- ◆TEL 0267-67-2295

佐久市で2012年9月に開催された「がん哲学外来市民学会第1回大会」をきっかけに樋野先生の勧めもあり、村島院長・地域医療室と共に毎月第2水曜14時～16時に院内で開催している。話題提供者は医師を含め医療関係者など様々である。毎回、院長が参加しお茶を飲みながら対話できることが特徴である。(寺尾 典子)

## 「あうんの家」

- ◆2014年5月
- ◆aunhome521@gmail.com

中山道追分宿に佇む、かつては旅籠であった古民家で月に一度開催している。旅人たちが重い荷を下ろし、疲れた体を休め、力を養って再び次の旅に出て行った場所でもある。この追分「あうんの家」カフェを訪れる方が肩の荷を下ろし身も心もホッと休まり、再び歩んで行けるようなそんな温かい場所であり続けたい。(荻原 菜緒)

## がん哲学外来 メディカルカフェ「どあらっこ」

- ◆2017年2月
- ◆hikoda8@yahoo.co.jp

「どあらっこ」は、日本初の中学生が立ち上げたメディカルカフェである。メンバー3人の内、一人ががん患者、残り2人が乳がんの母親を持つ子供である。皆さんと楽しい時間を過ごし、笑顔を増やす事を目標に活動している。第1回を名古屋市の「みずほ在宅支援クリニック」で開催し、多くの方が来て下さりとても嬉しかった。(彦田 栄和)

## 「みそかつ がん哲学外来」

- ◆2016年12月
- ◆h.akatuska@egaono-ouchi.com

在宅診療を行っている中で多くのがん患者様やご家族様の苦痛・不安に直面している。一人でも多くの方を笑顔にしたいと当院にできることを模索する中で、がん哲学外来樋野興夫先生に出会い開設に至った。「大名古屋ビルヂング」で3ヶ月に1回開催している。参加者の方々に医療者の多いことが当カフェの特徴である。(水野 伸一)

## 大阪がん哲学外来 メディカルカフェあずまや

- ◆2013年1月
- ◆FAX 06-6991-8020

医師として、患者さんに寄り添うことを探求するうちに「がん哲学外来」と出会い、カフェを開設した。クリニック向かいの一軒家で、土日祝のいずれか月1回のカフェ、課題本を輪読する読書会、平日夜の「よりみち19(トーク)カフェ」、長丁場のALL DAYなど、月2～3回何かしら開催している。個人面談は別途予約制。(東 英子)

## びわこ大津がん哲学外来・ メディカルカフェ

- ◆2016年11月
- ◆biwako\_otsu\_gantetsugaku@yahoo.co.jp

アッセンブリー大津キリスト教会を母体としたNPO活動のひとつである。そのきっかけは、家族が癌になったとき、県立図書館でたまたま手にした本が樋野興夫先生の『がん哲学外来へようこそ』だったこと。また、教会のつながりで神戸の「こころのとしびカフェ」の協力を得て、今年3月、最初のメディカルカフェを行なった。(野口 一郎)

## がん哲学外来カフェ @わくわくサロン

- ◆2016年6月
- ◆wakumekita1227@docomo.ne.jp

がん検診率のめっぽう低い大阪府堺市で、なんと！2つめのカフェである。「7000分の1になりたい」と思い立ったのは去年の5月。内科医としての経験や知識がお役にたてばと願いつつ、実は「暇げに見えるかしら？」と毎回不安である。開催は毎月第3水曜日午後6時～7時半、予約不要、参加費は無料である。(中野 佳世)

## がん哲学外来メディカルカフェ 『エリザベートカフェ』

- ◆2015年6月
- ◆TEL 090-4561-5200

メディカルカフェ『エリザベートカフェ』は、白いピアノが特徴のサロンで、月1回の開催を行っている。演奏家が集うこのサロンではオーガニックのお茶、お菓子を楽しみながら自然に様々な音楽を聴くことができる。「音楽で心を癒す」をテーマに、日頃の思いや悩みを語り合い、口笛やハンドパンコンサートなども企画している。(原田 理恵子)

## 御影がん哲学外来・メディカルカフェ こころのともしび

- ◆ 2016年5月
- ◆ [jesus\\_tomoshiibi@yahoo.co.jp](mailto:jesus_tomoshiibi@yahoo.co.jp)

がん医療経験豊富な医師・看護師の夫妻が主催。月に3回開催。がん哲学外来は現役外科医が担当。カフェは予約不要で毎回20人程度参加者があり、リピーターも多く愛に溢れた場となっている。参加者には男性も多い。すべて無料。阪神御影駅から徒歩2分の教会で開催。道路に面して入りやすい開放的な空間でリラックスできる。(笹子 三津留)

## がん哲学外来メディカル・カフェ in 帝塚山

- ◆ 2015年11月
- ◆ TEL 090-8163-7810

「がん哲学外来メディカル・カフェin帝塚山」はテキストとして『こころにみことばの処方箋』を使用し、一か所を読んだ後、茶菓タイムとしてフリーストックの時間を過ごす形式。会場は、日本長老教会大阪キリスト教会。まだ定期的な参加者はなく、予約でじっくりお気持ちを伺う時間と出会いの機会を大切に過ごしている。(若生 礼子)

## がん哲学学校 in 神戸 メディカル・カフェ

- ◆ 2014年8月
- ◆ [cpec@kobepharma-u.ac.jp](mailto:cpec@kobepharma-u.ac.jp)

大学で行うため「がん哲学学校」と名付け、参加者に何か学びがあればと考えて、毎回講演等を企画している。本学では患者さんのみならず、ご家族、医療従事者、学生と幅広い参加がある。また、樋野先生のご発案で学生主体の「がん哲学塾」も開催しており、将来、卒業生が人に優しい社会をつくってくれることを期待している。(横山 郁子)

## がん哲学カフェin播磨

- ◆ 2015年8月
- ◆ TEL 0791-75-2502

2012年、がんになった後、購読していた『信徒の友』誌上で、樋野興夫先生が「教会でがん哲学メディカル・カフェ」と呼びかけられているのを知り、自分のところでもやれないかと考えてカフェを始めた。現在は月に1回、播磨新宮教会(兵庫県たつの市)と姫路野里キリスト教会(姫路市)で交互に開催している。(穂積 修司)

## 神谷美恵子記念in長島愛生園 「がん哲学学校&愛カフェ」

- ◆ 2012年9月
- ◆ FAX 0869-25-2216 (直通)

神谷美恵子記念がん哲学外来カフェ「愛カフェ」は平成24年9月にスタート、今年で5周年を迎える。入所者が主体となり、悩み苦しむ人の声を発信する場になっている。互いの人生を知り、生きている喜びを感じ、生きている意味を見つける。ここでしか感じることでできない穏やかな風を一緒に感じて見ませんか。(高崎 康子)

## 神在の囿 がん・メディカルカフェ

- ◆ 2013年4月
- ◆ [ganpro@med.shimane-u.ac.jp](mailto:ganpro@med.shimane-u.ac.jp)

樋野先生のがん哲学外来に感銘を受け、島根大学医学部附属病院に対話をする場を設けたいと準備委員会(ボランティア)を集めて開設した。初回は樋野先生を講師に招いて記念講演会を開催。グループ形式のカフェを1回開催した。その後、個別面談のニーズがあったため、27年度より医師と面談する形で開催している。(磯部 威)

## がん哲学外来メディカルカフェ 「ロサリカコンディトルム」

- ◆ 2017年2月
- ◆ [rosa.licaconditorm@gmail.com](mailto:rosa.licaconditorm@gmail.com)

長年勤務していた会社を退職して南九州初の「がん哲学外来メディカルカフェ」開設を決意。がん哲学とは日常の全ての事に対し共通するものと共感。樋野先生から命名された美容哲学を使命として引き隠りがちな方へ癒しの空間を、また元気な姿を見て喜ばれるご家族の笑顔を取り戻す「リラクゼーションサロン」を開設している。(宮地 里加子)

## 福岡ホスピスの会・ がん哲学外来「ぬくみカフェ」

- ◆ 2016年5月
- ◆ [419tanpopo@ezweb.ne.jp](mailto:419tanpopo@ezweb.ne.jp)

2016年福岡ホスピスの会の公開講座に樋野先生をお招きして200人の皆様の前でカフェ開催を宣言。その3か月後に「ぬくみカフェ」誕生。奇数月の第2日曜にカトリック教会の会議室を借用、ゲストは各病院の緩和ケア医師や師長にお願いし毎回30人程が集う。この5月で1周年を迎える。今年度からは土曜日に変更予定。(柴田 須磨子)



第7回がん哲学外来

コーディネーター養成講座

実行委員長

横山 郁子

第7回の養成講座では、淀川キリスト教病院の柏木哲夫先生、大会では樋野先生をはじめ、沼田大会長と私が「この方のお話を是非お聴きしたい！」と思う方々にご講演いただきます。

「涙なくしては語れない」二日間となるでしょう。来てくださった皆様にも多くの「おみやげ」を持って帰っていただけると信じています。神戸でお待ちしております。

カフェ紹介のポスター募集

- ◇ ポスターサイズ:縦80cm×横60cm以内
- ◇ 募集締切:6月15日 (スペース確保のため、事前にお申し込み下さい)
- 当日ご持参の上、展示ブースに掲示してください。
- 手書き、パソコンでの作成等、どうぞご自由に!

問い合わせ先 神戸薬科大学薬学臨床教育センター cpec@kobepharma-u.ac.jp

第7回 がん哲学外来コーディネーター養成講座

総合司会 大会長 沼田千賀子

- 開会の挨拶 実行委員長 横山 郁子
- ガイダンス 「がん哲学外来コーディネーターとは」 がん哲学外来市民学会 副代表 北澤 彰浩
- 特別講演 「スピリチュアルケア」 淀川キリスト教病院グループ理事長 柏木 哲夫
- パネルディスカッション「がん哲学外来の原点」
  - 【司会】 東海大学医学部 血液腫瘍内科 安藤 潔
  - 福井県済生会病院集学的がん診療センター 宗本 義則
  - 【パネリスト】
    - ・ システム・インテグレーション(株) 多喜 義彦
    - ・ 佐久市立国保浅間総合病院 村島隆太郎
    - ・ 神戸薬科大学 薬学臨床教育センター 横山 郁子
    - ・ 富山県立中央病院緩和ケアセンター 竹川 茂
- グループワーク(16グループ) テーマ「がん哲学外来の原点」
- グループ発表 【司会】あずま在宅医療クリニック院長 東 英子
- 認定証授与式
- 閉会の挨拶 がん哲学外来市民学会 代表 樋野 興夫

がん哲学外来市民学会 第6回大会  
Cancer Philosophy Clinic for the People

日時 2017年7月9日(日)  
9:30~15:30(受付 9:00~)

会場 神戸薬科大学  
ききょう記念ホール 5号館  
定員:600名  
兵庫県神戸市東灘区本山北町4-19-1

プログラム  
開会挨拶 9:30-9:40  
大会長 沼田 千賀子 (神戸薬科大学 薬学臨床教育センター 教授)

基調講演 9:40-10:30  
「見据える勇気〜「道として生きる為に」〜」 樋野 興夫先生 (がん哲学外来市民学会代表 順天堂大学 病理・腫瘍学 教授)

特別講演① 10:30-11:30  
「今日一日を喜んで生きる」 寺岡 賢先生 (公益財団法人修善園(SYD)伊勢道場 講師)

特別講演② 12:30-13:30  
「市民としての役割〜聴くこと〜」 沼野 尚美先生 (宝塚市立病院緩和ケア病棟 チャペレン・カウンセラー)

招待講演 13:30-14:00  
「情報に振り回されないために」 笹子 三津留先生 (兵庫医科大学 集学的腫瘍外科科学 教授)

セミナー 14:00-14:15  
「がん教育を実践して」 神戸薬科大学6年生 浅田 聖士

「がん哲学塾」 14:25-15:25  
樋野 興夫名誉塾長、笹子 三津留先生、沼田 千賀子塾長  
横山 郁子副塾長、がん哲学塾・塾生

閉会挨拶 15:25-15:30

「役割を果たす」

市民学会認定

「がん哲学外来

「コーディネーター」

新たに認定された方々

- 36 原 保雄 (茨城県)
  - 37 中村 和行 (山口県)
  - 38 須磨 綾子 (神奈川県)
  - 39 横山 郁子 (兵庫県)
  - 40 佐藤 裕司 (北海道)
  - 41 山崎 純子 (福井県)
  - 42 大弥佳寿子 (東京都)
  - 43 上杉 有希 (東京都)
  - 44 内山喜一郎 (神奈川県)
  - 45 河津 英子 (福岡県)
  - 46 小野 仁美 (東京都)
  - 47 白井栄美子 (奈良県)
  - 48 白藤 明美 (石川県)
  - 49 佐藤 京子 (宮城県)
  - 50 小宮山 靖 (東京都)
  - 51 小宮山慶子 (東京都)
  - 52 西村 詠子 (石川県)
  - 53 児玉 清美 (福岡県)
  - 54 清水のつ子 (埼玉県)
  - 55 武岡ひとみ (東京都)
  - 56 吉田 泉 (東京都)
  - 57 米森 直子 (石川県)
  - 58 江川 守利 (東京都)
  - 59 綿谷 修一 (石川県)
- (※ 数字は認定番号です)

編集後記

ニューズレター編集人

星野 昭江

「花」輪カフェの紹介文に「カフェの初めに復興ソング『花は咲く』を皆で口ずさむ。がんになっても自分だけではなく周りを思うそんな気持ちを忘れないように」とある。続いて追分宿「あうんの家」カフェの紹介文。

「かつては旅籠であった古民家でカフェを開いている。追分宿は旅人が重い荷を下ろし、疲れた体を休め、力を養って再び次の旅に出て行った場所でもある」。旅びと、ひとり…。とほとほと足元を見て歩いて行く。足が痛み、振り分け荷物で肩も重い。

と、後ろから声を掛けられ、振り向くとその顔にはどこか見覚えがあるようで懐かしさに胸がいっぱいになった。道連れは「足を痛めてるようですね」と労わってくれて、荷物の一つをひょいと自分の肩から取ってくれた。そして「ほら、あそこ。山の中腹に大きな鯉が一匹、駆け上ってるみたいに見えるでしょ。浅間の雪形です。もうすぐ春がきますよ!」

このところ体を悪くしてずっとつらい事ばかりが続いていた。見知らぬ道連れ、その優しい声に涙が出そうになった。

旅は続けられる、そう思えた。